

# YU-PAL

## へっぼこ登山隊（第6弾）

朝の気温は3度、シャキッとすると寒さで真っ青な空が広がりへっぼこ登山隊の活動も紅葉と伴にそろそろ終盤、この後温かくなりそうなので隊長とメタボ隊員の軟弱2人組みには理想的なコンディションで仁頃山を目指します。

三連休の初日にこの天気で今日は混みそう、富里湖脇の駐車場に到着するとやはり東尾根登山口には15台ほどがすでに・・・そう今日はなんと仁頃山最長最強の東尾根ルートにチャレンジ、去年春足慣らしに管理車道を登り、下りは東尾根コースでも楽勝と思って入り、沢を二つも跨ぐ雪深いコースと3時間も格闘してヨレヨレになって降りてきたのが記憶に新しいところです。

登り始めてまもなく、勢いのよい鈴音が聞こえ登り終えた健脚3人と挨拶を交わし、東新道との分岐で早くも汗だく、標高差で100メートル近く登って来たのに同じぐらい下り「一の沢」、ここを折り返しまた同じぐらいの登り下りを繰り返す「清流沢」、ここまでおよそ1時間、小池橋を渡り東尾根本体に入ります。

ここから山頂までは標高差約500メートル、キツイ傾斜を登りきると「東カンバ街道」と書かれた尾根に出て、少し周囲が見えはじめ、緩急を繰り返し登って行くと「オホーツク展望」からは一気に視界が開け、山頂の鉄塔群が大きく見える辺りには雪が残り流れ落ちる汗を冷やしてくれました。

山頂には先着のソコ2組、後から年配の3人組の他は我々だけと意外に少なく、サロマ湖や大雪、十勝、阿寒の遠望をゆっくり楽しんでから管理車道を降り、3合目を過ぎたあたりで声をかけられたのがこの山のスーパースター喜作さん、ツーショット写真に納まり「喜作のページ」に登場することになりました。

「東尾根から3時間もかかりました」と言うので「その体型なら早い方だよ」と切り返され大笑い、短い立ち話でしたが楽しいひと時でした。

仁頃山は色々なコースが用意されていてどれもとても良く整備され公園の遊歩道のようなのですが、そこはやはり「山」で決して侮れないのですが、この山を大切にすると人のふれあいもまた楽しいところです。

2013年 11月2日	北見市 仁頃山	標高 829m		
天気	晴	往路	3:18	5:10
気温	8°C	休憩	0:28	
風向	北西微	復路	1:24	

